

## 2023年度 研究センター事業報告書

研究センター名	地域健康社会学研究センター
---------	---------------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなないできるだけわかりやすく記述してください。

## 1. 地域健康社会学プロジェクト研究の推進

寄付研究プロジェクト（2016年4月発足）時の主旨を引き継ぎ、住民の参加・協働による地域健康創出をめざす基礎的研究、歴史・実践研究、現状分析・方法開発の総合的な研究を、以下のように展開した。

地域健康づくりの知識基盤については、全国から無作為抽出した対象者を追跡したコホート研究において、社会格差、地域格差、社会資本等の「社会的要因」も含めも含めた分析的研究を行っており、予防要因分析を通して政策構築に資する疫学研究の手法を用いて健康創出の社会的課題を明らかにしてきた。新型コロナウイルス感染症によって浮上した医療システムのレジリエンスや刑務所医療に関する検討を推進した。

地域健康主体形成に関わり、健康課題を「自分ごと」と捉える視点の検討を、認知症の人と家族の会との共同ですすめた。認知症は特別な病気ではなく人生の延長線上にあるものという捉え方を検討している。特に、同会が、設立から40年以上経ち、会員の世代交代、社会における認知症理解の変化の中で、どのような視点が望ましいかの検討を進めた。地域健康づくりについては、福島県・郡山市保健所とともに、地区診断、健康格差について分析、評価を行った。

地域健康情報については、後述する滋賀県国民健康保険加入者のデータの検討、不充足となっている医療の必要、居住と健康などに関わり理論的・実証的研究をすすめた。

地域・健康・人文学プロジェクトにおいては、虐待等にかかわる臨床社会学的検討、複線径路等至性アプローチ（TEA）の理論的・実践的展開等を推進しつつ、健康に関わる諸領域での応用、特に専門家養成・教育における活用を進めた。

センター全体の取組みとして、2022年度より研究会を開催し（計4回）、参加研究者それぞれの専門分野から地域における健康と社会に関わる問題の検討を重ねた。この研究会は次年度以降も継続して開催の予定である。また、センター設立当初より継続している「早川一光を語る会」の2023年度開催準備をすすめた。

## 2. 外部資金獲得の推進

センターの運営資金として寄附金を保有するほか、参加研究者にはJSPS科研費、厚生労働行政推進調査事業費補助金を獲得している。また、個別の研究課題推進のため、科研費への申請も積極的に行った。センター長の早川が滋賀医科大学との共同研究を行い、疫学、公衆衛生学の観点から地域医療の可能性を模索するとともに、産学官連携や外部資金の獲得を見据えた研究を行った。

## 3. メディアを用いた専門的知識の発信

センターウェブサイト、ソーシャルメディアにおける積極的な発信を行うとともに、各メディアの特性を生かした独自の情報発信についても工夫や分析を行い、より効果的な情報発信に努めた。早川センター長は、KBS 京都ラジオにおいて、月に一回、健康や地域、生活習慣病、地域保健、健康格差など公衆衛生学に関連した話題提供を生番組で社会に伝えており、リスナーさんともやり取りを行った。また、当初より取り組んでいる地元ラジオ局の番組について、引き続き小学生目線で観た地域の高齢者への作文を発信した。これらの取組みの中で、高齢者・子ども・地域の役割を明らかにし、地域社会への貢献を行った。さらに、ラジオ番組での取組みを契機に小学生への出前授業を行い、日本の高齢化問題に対する相互理解を深めた。なお、2022年度も新型コロナウイルス感染症について、メディアらの取材を数回受け、社会状況を鑑みながら公衆衛生学的視点からコメントを行った。

## 4. 社会貢献およびその他の活動

本センターの施策は行政の施策にも活用されている。例えば、滋賀県健康医療福祉部は、2020年度に当センターと滋賀県健康医療福祉部と協働で実施した滋賀県国民健康保険加入者の健康福祉データ分析を、次期データヘルス計画策定に向けた標準化の検討資料として活用している。

本研究センターの参加研究者は、専門的知識を活用し行政等の活動に貢献した。早川センター長は、2017年度より「滋賀県データ活用事業プロジェクト会議」（滋賀県衛生科学センター）座長として、健康や医療、介護など滋賀県健康寿命延伸のための各種データを一体的に分析・活用し、市町や県における予防的取組みの推進に貢献している。また、滋賀県国民健康保険運営方針等検討協議会保健事業部会に学識経験者として参加し、助言を行った。なお、滋賀県は全国平均寿命都道府県ランキングで日本有数の長寿県である。さらに、2018年度から滋賀県草津保健所が実施する「県南地域みんなでコラボ」事業において座長を務め、働き盛りの住民の健康をまもるために、県南地域の地域・職域の枠を超えて連携を具体化していく取組に貢献している。京都府下、福島市を始めとした自治体にて、「地域に責任を持った保健活動の強化」をテーマとして講師を務めるなど、各種団体における講演依頼や委員委嘱依頼を積極的に受け、新たな研究展開のシーズを開拓している。他の参加研究者も、多様な組織において専門家として貢献した。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	早川 岳人	衣笠総合研究機構	研究教員（教授）	
運営委員	中村 正	産業社会学部	教授	
	松田 亮三	産業社会学部	教授	
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授	
	岡田 まり	産業社会学部	教授	
	山口 洋典	共通教育推進機構	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	丹波 史紀	産業社会学部	教授	
	小田巻 友子	経済学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	金森 京子	社会学研究科	博士課程後期課程
		相馬 才乃	社会学研究科	博士課程前期課程
		市川 岳仁	人間科学研究科	博士課程後期課程
		天野 諭	人間科学研究科	博士課程後期課程
		安發 明子	人間科学研究科	博士課程後期課程
		工藤 芳幸	人間科学研究科	博士課程後期課程
		向井 理菜	人間科学研究科	博士課程後期課程
		下郷 大輔	人間科学研究科	博士課程後期課程
ZHANG Qiuyang	人間科学研究科	博士課程後期課程		
学振特別研究員 (PD・RPD)	朴 希沙	人間科学研究科	PD	
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員	大倉 和子	明治国際医療大学看護学部看護学科	講師	
	富澤 公子	立命館大学産業社会学部	非常勤講師	
	日高 友郎	福島県立医科大学	講師	
	西沢 いづみ	京都中央看護保健大学校	講師	
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	高山 一夫	京都橘大学経済学部	教授	
センター構成員	計 23名	(うち学内の若手研究者 計 10名)		

### Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2024年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	サトウタツヤ	人物で読む心理学事典	監修	2024年2月	朝倉書店	長岡 千賀・横光 健吾・和田 有史(編)	全 424 頁
2	岡田まり	実践ソーシャルワーク・スーパービジョン	共編著	2023年4月	中央法規出版	浅野正嗣、小山隆、野村豊子、宮崎清恵	PP. 81~102

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	早川岳人	Smoking habit is associated with impaired long-term quality of life in elderly people: a 22-year cohort study in NIPPON-DATA 90.	共著	2023 Sep	J Epidemiol. doi: 10.2188/jea.JE20220226..	Liu YW, Okamura T., Hirata A, Sato Y, Hayakawa T, Kadota A, Kondo K, Ohkubo T, Miura K, Okayama A, Ueshima H, for the NIPPON DATA90 Research Group		有
2	早川岳人	Relationship between hemoglobin concentration and cardiovascular disease mortality in a 25-year follow-up study of a Japanese general population: NIPPON DATA90	共著	2024, Feb	Circulation Journal, doi:10.1253/circj.CJ-23-0725	Kawashima M, Hisamatsu T, Harada A, Kadota A, Kondo K, Okami Y, Hayakawa T, Kita Y, Okayama A, Ueshima H, Okamura T, Miura K, for the NIPPON DATA90 Research Group	88: 742-750	有
3	中村正	臨床社会学の方法(43)鏡の背面-他者をとおした欲望の実現	単著	2023年12月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(3)		PP. 25~35	
4	中村正	性暴力・ジェンダー暴力連続体と治療的司法	共著	2023年10月	法と心理学会、法と心理、23(1)	中村正、安田裕子、藤澤陽子、宮崎浩一、山口修平、後藤弘子		
5	中村正	臨床社会学の方法(42)『知らないこと』はつくられている-無知の姿勢・無知の知を超える『無知学』へ	単著	2023年9月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(2)		PP. 25~34	
6	中村正	臨床社会学の方法(41) DV 防止システムの構築-地域における暴力抑止の体系化	単著	2023年6月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(1)		PP. 22~31	
7	松田亮三	医療同等性の徹底に向けて-欧州の経験からの示唆	単著	2023年11月	日本刑法学会、刑法雑誌、63(1)		PP. 45~56	招待
8	松田亮三	医療の必要の不充足の社会的可視化-普遍医療給付の徹底に	単著	2023年6月	貧困研究会、貧困研究、No. 30		PP. 5~13	招待

		向けてー						
9	松田亮三	「コロナ後」に向けた地方公衆衛生行政の課題ー地方制度との関わりでー	単著	2023年 4月	大月書店、季刊自治と分権、No. 91		PP. 41~51	招待
10	松田亮三	問われる「開業医」像ー国際的動向をみながら考える	単著	2023年 4月	大阪府保険医協会、大阪保険医雑誌、No.680		PP. 10~13	
11	サトウ タツヤ	13年間202回のコスプレ経験のプロセス写真を用いた検討(2009-2021)	共著	2024年 3月	立命館大学ものづくり質的研究センター、質的研究と社会実装、1(1)	福山未智、サトウ タツヤ	PP. 48~65	有
12	サトウ タツヤ	コロナ後の文化心理学ネットワーク、再始動 帰って来たー対人援助学縦横無尽(1)	単著	2024年 3月	対人援助学会、対人援助学マガジン、(56)		PP. 64~81	
13	サトウ タツヤ	対立から相補性へ、多様性から複雑性へー産学官連携に質的研究をどのように役立てるか	単著	2024年 3月	日本質的心理学会、質的心理学研究、(23)		PP. 47~55	招待
14	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪【第20回】キューバ②	単著	2023年 10月	日本心理学会、心理学ワールド、(103)		PP. 2~2	
15	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪【第19回】キューバ①	単著	2023年 7月	日本心理学会、心理学ワールド、(102)		PP. 2~2	
16	サトウ タツヤ	心理学史諸国探訪【第18回】プエルトリコ	単著	2023年 4月	日本心理学会、心理学ワールド、(101)		PP. 2~2	
17	岡田まり	社会福祉士とソーシャルワーク教育	単著	2023年7月	ソーシャルワーク研究 1(3)		PP. 183~191	無
18	山口洋典	PBLの風と土:(28) 担い手を理論がつなぎ方法論でつなげる	単著	2024年 3月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(4)		PP. 207~212	
19	山口洋典	PBLの風と土:(27) 地域貢献は教育・研究・活動との交差点	単著	2023年 12月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(3)		PP. 158~163	
20	山口洋典	PBLの風と土:(26) 大学での活動が地域における学習機会に	単著	2023年 9月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(2)		PP. 169~174	
21	山口洋典	PBLの風と土:(25) 立場を超えた対話的理解で地域の変容を	単著	2023年 6月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(1)		PP. 149~154	
22	丹波史紀	原子力災害における被災者の生活再建に関する調査研究: 第3回双葉郡住民実態調査の結果から	単著	2023年 12月	大阪公立大学経済研究会、季刊経済研究、042(1-3)		PP. 3~21	
23	丹波史紀	生活再建の複線化を実現する復興政策を	単著	2023年 9月	一般社団法人日本住宅協会、住宅、(72)		PP. 23~28	
24	富澤公子	人生100年時代の健康長寿を支援するコミュニティ課題: 高齢者の近隣との交流実態における都市部(京都市下京区)と農村部との比較を通じて	共著	2023年 6月	産業社会学部、立命館産業社会論集、59-1	中西典子	PP. 181~200	有
25	富澤公子	人生100年時代における健康長寿を支援する地域コミュニティ要因	共著	2023年 6月	日本老年社会学会、老年社会科学、45-2	中西典子	PP. 134	有

26	富澤公子	都市生活の場における「語られる人生」にみるサクセスフルエイジングの要因：一京都市下京区に居住する超高齢者を対象とした修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチと社会関連性指標を用いた分析	共著	2023年 12月	産業社会学部、立命館産業社会論集、59-3	中西典子	PP. 13~32	有
27	富澤公子	量子力学の「ゼロ・ポイント・フィールド仮説」からみる死後の理解と幸福な老い	単著	2024年 2月	国際文化政策研究教育学会、国際文化政策、17号		PP. 89~98	有
28	富澤公子	コミュニティのつながりこそ老いを輝かせる：長寿地域「奄美群島の」の学際的研究	単著	2024年 3月	日韓共同会議予稿集『超高齢社会におけるウェルエイジングとウェルディング』		PP. 199~210	無
29	日高友郎	偶有的プロセスとしての産官学連携——地域住民の健康増進を目的とした新規調査事業における連携の成立・持続の集団的達成過程の記述	共著	2024年 3月	日本質的心理学会、質的心理学研究、23巻	鈴木理恵子、橋本克枝、井上真理子、寺田幸子、遠藤翔太、各務竹康、郡司真理子、阿部孝一、福島哲仁	PP. 5~24	有
30	日高友郎	Developing a broad perspective of future work and career in medical students through field trips to a disaster area: a qualitative study.	共著	2024年 3月	Springer Nature, BMC research notes, 17(1)	Endo, S., Kasuga, H., Masuishi, Y., Kakamu, T., & Fukushima, T.	PP. 63	有
31	日高友郎	Associations of endurance, muscle strength, and balanced exercise with subjective sleep quality in sedentary workers: A cross-sectional study.	共著	2023年 12月	IOS Press, Work (Reading, Mass.), DOI: 10.3233/WOR-230299	Kakamu, T., Endo, S., Masuishi, Y., Kasuga, H., Hata, A., Miura, R., Funayama, Y., Tajimi, K., & Fukushima, T.		有
32	日高友郎	難治性・進行性の病いと「健康」一筋萎縮性側索硬化症(ALS)者のウェルビーイング	単著	2023年 10月	日本心理学会、心理学ワールド、103巻		PP. 12~15	無
33	日高友郎	Returning to a Once Highly Contaminated Homeland in Fukushima in 2023: Resident Concerns of Agricultural Accident and Public Safety.	共著	2023年 8月	Society for Disaster Medicine and Public Health, Disaster medicine and public health preparedness, 17	Kakamu, T., Endo, S., Kasuga, H., Masuishi, Y., & Fukushima, T	PP. e449	有
34	日高友郎	Perceived Future Outcomes of Unsuccessful Treatment and Their Association with Treatment	共著	2023年 6月	Springer Nature, Diabetes therapy, 14(9)	Suzuki, R., Hashimoto, K., Inoue, M., Terada, Y., Endo, S., Kakamu, T.,	PP. 1437~1449	有

		Persistence Among Type-2 Diabetes Patients: A Cross-Sectional Content Analysis.				Gunji, M., Abe, K., & Fukushima, T.		
--	--	---	--	--	--	-------------------------------------	--	--

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	中村正	ハイリスク・ストーカーへの法と臨床・新たな視点の展開	2023年9月	第61回日本犯罪心理学会大会	指宿信、後藤弘子ほか
2	松田亮三	医療・福祉領域における協同組合—国際的文献からみる(研究動向—)	2024年3月	第7回くらしと協同 研究活動報告会(全体研究会)	
3	松田亮三	日本における「健康格差」対策—既存の政策パラダイムによる限定	2023年7月	第64回日本社会医学学会総会、早稲田大学	
4	サトウタツヤ	行動分析とTEA(複線径路等至性アプローチ)、その魅力と共通点	2023年9月	第41回 日本行動分析学会、大阪いばらきキャンパス	
5	サトウタツヤ	心理的競技能力診断検査(DIPCA.3)を用いたラグビーチームにおける実態調査	2023年9月	第73回 日本体育・スポーツ・健康学会、同志社大学	友定 啓仁、サトウタツヤ、笹場 育子
6	サトウタツヤ	震災復興支援におけるボランティア活動の長期継続方法とは	2023年6月	第2回TEAと質的探究学会、大阪いばらきキャンパス	秋口楓
7	岡田まり	スーパーバイザー養成研修の理論的枠組み ～スーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして～	2023年7月	日本ソーシャルワーク学会 第40回大会	野村豊子、片岡靖子、潮谷恵美
8	岡田まり	スーパーバイザーのコンピテンシー —福祉専門職のスーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして	2023年10月	日本社会福祉学会 第71回秋季大会	野村豊子、片岡靖子、潮谷恵美
9	山口洋典	能登地震における在留外国人の被災地ボランティア	2024年2月	国際ボランティア学会第25回大会、東京外国語大学	宗田勝也
10	富澤公子	人生100年時代における健康長寿を支援する地域コミュニティ要因に関する報告	2023年6月	第5回日本老年社会科学学会大会、パシフィコ横浜	
11	富澤公子	コミュニティのつながりこそ老いを輝かせる—「目標は100歳」と語る奄美の超高齢者たち	2024年2月	第142回ともに公共する(生命開新)美学をともにデザインするワークショップ	
12	富澤公子	コミュニティのつながりこそ老いを輝かせる:長寿地域「奄美群島の」学際的研究	2024年3月	日韓共同会議(東北大学・西江大学)、東北大学	
13	富澤公子	与論島の『ヤーナー(家名)』継承要因と今後への展望:奄美における与論の共通性と差異から考察する	2024年3月	国際文化政策研究教育学会春季大会	
14	日高友郎	Discussion for: Memorials as Transitional Places: The Potential of the Liminality Concept	2023年12月	立命館大学ものづくり質的研究センター第20回研究会(特別企画),	
15	日高友郎	福島原発事故による長期避難後の帰還困難区域への帰還に関する懸念:飯舘村長泥地区住民へのインタビューから	2023年11月	復興の人間科学2023、早稲田大学	
16	日高友郎	大学医学部における職場ダイバーシティ推進:労働者	2023年10月	第82回日本公衆衛生学会総会、つくば国際会議場	各務竹康, 小宮ひろみ

		ニーズと性・年齢・所属との関連性			
17	日高友郎	当事者の声はどのように尺度に届くか？	2023年9月	日本心理学会第87回大会、神戸国際会議場	
18	日高友郎	座位中心型労働と就寝時刻遅延との関連：断面研究	2023年5月	第96回日本産業衛生学会、宇都宮ライトキューブ	遠藤翔太、増石有佑、各務竹康、三浦利恵子、宗像ゆかり、多治見公高、福島哲仁

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	フォスタリングソーシャルワーク企画(人間研総会) 中村	衣笠キャンパス	2023年3月	70名	立命館大学人間科学研究所主催
2	第11回医療福祉研究会 小田巻	オンライン	2023年4月	10名	なし
3	第三回「医師早川一光を語る会」	衣笠キャンパス	2023年5月	300名	地域健康社会学研究センター主催 立命館大学人間科学研究所共催
4	第5回 原発事故避難者を対象とした縦断的研究に係る研究会 日高	福島県立医科大学 駅前キャンパス	2023年11月	15名	科研費「原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究」(基盤 B、代表:辻内琢也、分担:日高友郎)

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	早川岳人	KBS 京都ラジオ さらピン!キョウト	KBS 京都ラジオ	毎月第四週 14:00~17:00	
2	早川岳人	公益社団法人認知症の人と家族の会 理念と未来を考える学習会	認知症の人と家族の会	2023年度 青森県支部(10月29日)鳥取支部(2月3日)、山口支部(2月11日)、岐阜支部(3月10日)	
3	中村正	NHKBS プレミアムダークサイドミステリー「児童移民」	60分番組の制作に協力。出演して解説も担当	2024年6月	
4	サトウ タツヤ	万歳のやり方、「手のひらは内側」が正しい? 変えられぬ心理とは	朝日新聞 論の芽	2024年3月	
5	サトウ タツヤ	頭がいいって何?	NHK「チコちゃんに叱られる」	2023年6月	
6	サトウ タツヤ	文化心理学と TEA による経験の理解	野外教育学会研究集会	2023年12月	
7	サトウ タツヤ	文化心理学と TEA による経験の理解	第1回<生活世界中心のCX理解研究報告会>	2023年9月	
8	山口洋典	「探求人」:被災者に「伝わる」支援とは 神戸原点「細くとも長く、一緒に」	京都新聞 教育面(10面) 2024年3月24日付	2024年3月	
9	富澤公子	先祖崇拝、命の連鎖にも	奄美新聞 文化面 2023年11月16日付	2023年11月	
10	富澤公子	人物交差点:与論のヤーナーを調査	南海日日新聞 2023年11月16日付	2023年11月	
11	富澤公子	与論のヤーナー調査の旅 前編・後編	奄美新聞 文化面 2023年12月5日付	2023年12月	
12	富澤公子	「目標は百歳」と語る奄美の超高齢者の物語 全11回	奄美新聞 文化面 2024年1月14日~3月25日	2024年1月~3月	
13	日高友郎	共同研究の経緯分析	福島民報 21面	2024年3月	
14	日高友郎	質的研究法入門(講演会)	2023年度人文研ストレス・マネジメントプロジェクト公開研究会 中央大学 オンライン	2024年2月	
15	日高友郎	福島県の健康課題:2型糖尿病に対する産官学連携による取り組み	立命館土曜講座 オンライン	2024年2月	
16	日高友郎	明日への活動に生かそう~個と集団の健康をそっと後押しする方法~	令和5年度郡山市保健師交流集会(医療専門職向け講演) 福島県看護会館みらい	2023年8月	
17	日高友郎	被災地に移住すること~メンタルヘルスの現状と課題について~	ふくしま心のケアセンター市民公開講座 オンライン	2023年7月	
18	日高友郎	「糖尿病進めば治療に痛み」懸念持つ患者ほど通院	福島民報 22面	2023年7月	

19	日高友郎	糖尿病治療、患者の認識は「将来発生しうる脅威」	福島民友 19面	2023年7月
----	------	-------------------------	----------	---------

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	丹波史紀	SOMPO 福祉財団	SOMPO 福祉財団賞	原子力災害からの複線型復興 —被災者の生活再建への道	2024年1月

7. 科学研究費助成事業（科研費）

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	中村正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学際的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	研究分担者
2	中村正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	研究代表者
3	松田亮三	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	研究分担者
4	松田亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	研究代表者
5	松田亮三	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023年4月	2026年3月	研究分担者
6	岡田まり	コンピテンシーに基づくスーパーバイザー養成プログラムのモデル構築	基盤研究(B)	2018年4月	2024年3月	研究代表者
7	岡田まり	成長に応じるスーパービジョンモデルとバイザー研修・支援システムの構築に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2024年3月	研究分担者
8	山口洋典	理論と実践の往還を通じた越境的学びによる日本語教師養成プログラムの開発と検証	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	研究分担者
9	山口洋典	初等中等高等教育におけるパートナーシップに基づくサービスラーニングの実装化	挑戦的研究(萌芽)	2021年4月	2024年3月	研究分担者
10	丹波史紀	原子力災害にともなう被災者の生活再建に関する調査研究	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	研究代表者
11	小田巻友子	保育サービス生産への親の参加が及ぼす影響と参加を阻む社会経済的要因の検討	若手研究	2021年4月	2025年3月	研究代表者
12	大倉和子	いつでも速歩トレーニングが体力・認知機能に及ぼす影響：クロスオーバー試験	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	研究分担者
13	日高友郎	福島県の吃音支援システムの構築を目指したアクションリサーチ	若手研究	2021年4月	2025年3月	研究分担者
14	日高友郎	労働現場における中軽症熱中症の要因と経路のパターン解明による特異的予防策の立案	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	研究分担者
15	日高友郎	COVID-19による労働環境変化が学校教員の健康状態や健康関連行動に及ぼす影響	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	研究分担者
16	日高友郎	原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	研究分担者

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	早川岳人	国民代表集団のコホート研究によるウィズ・コロナ時代の健康格差・健康寿命の規定要因の解明および健康調査のオンライン化の検討	厚生労働行政推進調査事業費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2021年4月	2024年3月	研究分担者
2	中村正	フォスタリングソーシャルワーク専門講座の開講	日本財団	2023年4月	2024年3月	研究代表者
3	中村正	京都府	令和5年度DV加害者更生プログラム及び支援員養成講座	2023年4月	2025年3月	研究代表者
4	サトウタツヤ 丹波史紀	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践	公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構	2021年6月	2026年3月	研究代表者
5	岡田まり	障害者の地域での自立生活支援	ユニバーサル財団研究助成	2022年11月	2023年3月	研究代表

						者
6	日高友郎	働きやすい職場の調査手段としての the Systematic Workplace-Improvement Needs Generation(以下、SWING) の有効性に対する研究	受託研究 株式会社 iCARE	2022年9月	2024年7月	研究代表者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
なし								